

# 暮らしの中に大学の力を

## 地域と共に歩む前橋工科大

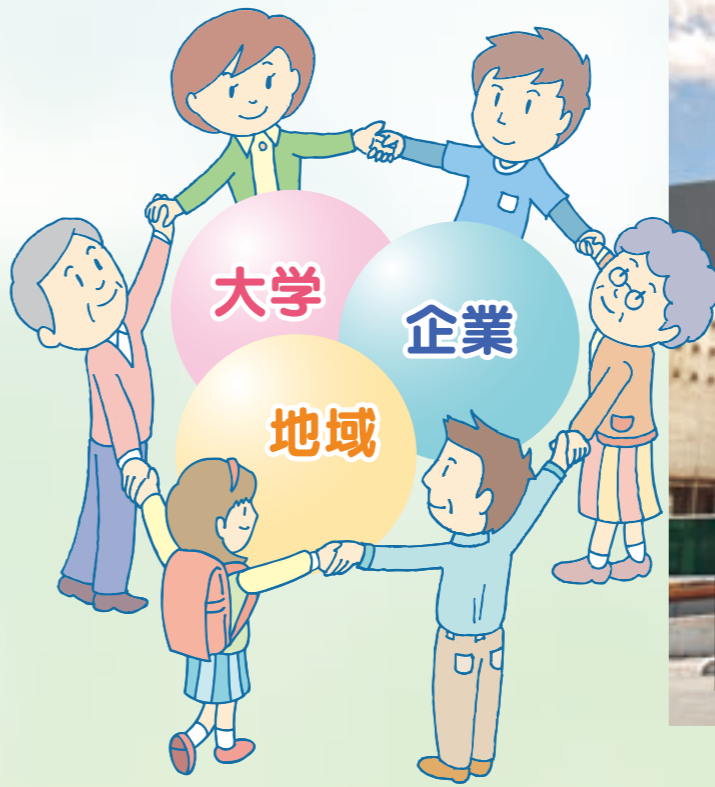
市民が作る  
市民編集  
のページ Vol.83



問い合わせは  
前橋工科大 ☎265-0111  
まちなかキャンパスについては 商工会議所 ☎234-5111

# 暮らしの中に大学の力を

近ごろ期待されている、大学の地域貢献活動。前橋工科大では「地域連携推進センター」が窓口となって地域や企業と連携し、地域社会のニーズに応えています。今回は同センターのさまざまな事業のうち、市民生活にかかわりの深い事業にスポットを当て、取材をしてきました。担当は市民編集委員杉崎・古田島。



主に大学紹介をしています。進路選択の時期にある高校生が、同大で研究している学問を通じて科学技術に興味を持てる機会を提供しています。

●**公開講座**…教員や企業の技術者などが講師となり開催。最先端の科学技術などの学習機会を提供しています。

●**専門講座・地域連携推進センター講座**…毎年、テーマに沿った専門知識を学ぶ講座や各種資格取得を支援する講座を開催しています。

これらの講座を受けた人からは、「分かりやすく話をしてもらって充実した時間を過ごせた。今後も続けてもらいたい」という声を多くいただいているそうです。



大学は敷居が高く、遠い存在だと思ってしまうがちですが、実はとても身近なところなのです。大学側としても、さらに地域との連携を深め、より近い存在になれるよう、今後も積極的に活動していきたいと話していました。

### 県内の大学と協力し まちなかをキャンパスに

商工会議所と連携して、中心市街地を主会場に「まちなかキャンパス」を開講しています。県内の大学が協力し合って講師を派遣。前橋工科大の教員も講座を持っています。先日講座に参加してきましたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。参加すると中心商店街の加盟店で使える「Qのまちなかポイントカード」のポイントがもらえます。講座を受けてポイントのため、お得に買い物をする。まさに地域に貢献している事業といえるでしょう。詳しくは商工会議所へ問い合わせるか、同所ホームページ (<http://www.maebashi-ci.or.jp/mcci/>) をご覧ください。

### コミュニティづくりに 空き地の活用を

同大では、地域コミュニティの再生を進めるための研究も行っています。最近では、六供・松並木地区におけるグリーンプロジェクト事業を始めたそうです。この事業は、地区内の空き地をオーブンガーデンとして、遊休農地を市民農園として市民に提供し活用しようとするもの。多くの人が世代を超え、気軽に触れ合える場として活用していきたいとのこと。

### 産声を上げた 地域連携推進センター

大学は、教育・研究という使命を持つほか、最近では第3の使命として地域貢献活動が期待されています。知的・人的資源を提供する大学と、実用技術や経験などの資源を提供する地域や企業が互いに連携することで、地域社会の発展を目指しています。

前橋工科大では、地域に開かれた大学を目指し、平成9年の開学と同時に「交流センター」を設置しました。平成13年度には、業務のさらなる充実を目指し、「地域研究開発センター」と名称を変更。以後、企業や団体と連携協定を締結し発展を続け、ことし4月に「地域連携推進センター」として現在の組織に改組されました。業務の3本柱として、「地域貢献事業」、「連携研究推進事業」、「国際研究交流事業」を掲げ、地域のまちづくりや産業の振興に力を注いでいます。

### より親しまれる 大学を目指して

大学の教育や研究の成果を学内にとどめることなく、広く市民に還元するため、次のような教室や講座を開いています。

●**子ども科学実験教室**…毎年、夏休み期間に小学生を対象に開催。子どもたちの理科離れが叫ばれている中、実験や体験を通して科学に対する関心を深め、面白さを知ってもらうことを目的としています。

●**高校生対象出前講座**…各高校へ教員が出向き、



とでした。現在は試験的な取り組みの段階ですが、年明けから本格的に始動する予定だそうです。詳しくは問い合わせを。この事業に、より多くの人たちが参加することで、新たな地域コミュニティを生み出す力になるのかもしれない。今後注目していきたいでしょう。

### 編集 後記

今回の取材で、大学の地域貢献活動の大切さを実感しました。大学が企業や地域と協力することで、地域の力を引き出し、活性化につながっていくのだと思います。その窓口を担う地域連携推進センターはとても重要な位置にあります。皆さんも一度、前橋工科大の行う地域貢献活動に参加してみたいかがでしょうか。